



かみなりは、どうして起きるの

積乱雲（かみなり雲、入道雲）ができる

真夏の暑いときなどに、太陽が強く照りつけて地表を熱すると、空気が暖められてぼう張し、急激に空に上がっていきます。上空に特に冷たい空気があると、積乱雲ができます。この雲は夕立雲ともよばれ、激しい雨を降らせたりします。

積乱雲の上のほうは、氷のつぶでできています。積乱雲の中では、空気が、激しい勢いで上昇（上のほうにのぼる）したり、下降（下がる）したりしています。

かみなりは、積乱雲の中でできる電気

積乱雲の中で空気が激しく動くと、氷のつぶがぶつかりあったり、こすれあったりします。このとき、積乱雲の中に、プラスとマイナスの電気がたまります。この電気が、雲の中や、雲と雲、雲と地面の間にもものすごい勢いで流れます。かみなりは、このようにして起きます。（監修・村山 貢司）

